

病院図書室ネットワーク研修会プログラムの傾向調査

清水麻紀¹⁾，伊藤友香²⁾，和気たか子¹⁾

¹⁾ 藤沢市民病院図書室，²⁾ 湘南藤沢徳洲会病院医学情報センター

背景と目的

発表者は、神奈川県医療情報ネットワーク協議会（以下 神奈ネット）で世話人を務めている。神奈ネットは、神奈川県内の病院またはこれに準ずる医療機関図書室間の連絡及び協力と、担当者の資質向上による県内病院図書室の発展を目的として 1989 年に発足した。発足当初より個人の自主的参加によっており、現在約 60 名の会員に連絡メールを送信している。年 2 回研修会を開催しているが、参加者が興味を引くプログラムを考えるのは一苦勞である。他ネットワークの研修会ではどのような内容か、どのようなプログラムの傾向があるか調査し、神奈ネット研修会の参考にしたい。

調査方法

- ・対象年 2013～2017 年度（過去 5 年間）に開催された研修会
- ・対象ネットワーク 近畿病院図書室協議会，北海道病院ライブラリー研究会，済生会図書室連絡会，神奈川県医療情報ネットワーク協議会ほか。

研修プログラムコンテンツは、各ネットワークウェブサイトや会報，記念誌等から抽出した。カテゴリーを「文献検索（医中誌 Web）」「文献検索（PubMed）」「相互貸借」「図書修繕」「図書室広報」「利用者教育・オリエンテーション」「電子ジャーナル」「図書室（館）見学」等テーマ別に分け、近年の傾向を探る。

結果

トピカルな話題がある際は、プログラムに取り上げられることが多い。その一方、病院図書室は一人職場の施設が多く、担当者引継も不十分のケースが多い。そのため、図書室実務に直結したものや、基本的なコンテンツが繰り返される傾向がみられた。詳細は当日の発表で行う。

謝辞

データ使用を快く許可して下さった皆様に厚く御礼を申し上げます。

参考文献

- 藤本衣代．北海道病院ライブラリー研究会．医学図書館．64(3):156-158．2017
高崎千晶．済生会図書室連絡会．ほすびたる らいぶらりあん．43(1)18-20．2018